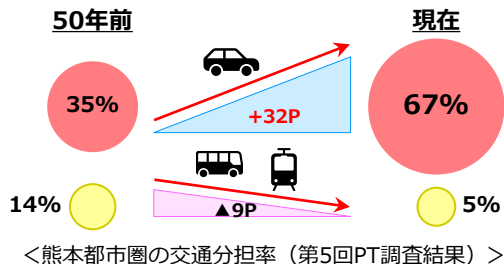


1. 目的

- 持続可能な公共交通を目指し、地域全体で公共交通を支えていく環境を構築するため、**地域特性や車両特性に応じて基幹公共交通の機能を強化し、公共交通の定時性・速達性・輸送力の向上を図るもの。**
- 基幹公共交通軸上の乗換拠点における**各交通手段間のシームレスな乗換環境の整備**を行うことで、**公共交通利用者の利便性向上を図るもの。**

2. 現状・課題

- **自動車交通は増加の一途をたどる一方、公共交通は大幅に減少**
⇒交通手段分担率(1973→2023年)：自動車 35%→67%、公共交通 14%→5%
- **熊本市の主要渋滞箇所数は政令指定都市でワースト1（3大都市圏除く）**
⇒令和6年(2024年)3月時点で175か所（県内の約6割が熊本市に集中）
- **半導体関連産業の集積に伴い更なる渋滞悪化が顕在化**
⇒TSMC周辺の大津植木線の渋滞は前年の5倍、JR原水駅の乗車人員は1.5倍
⇒人口増加を続ける合志市とを結ぶ熊本電鉄の利便性向上と上熊本駅の結節機能強化が不可欠
- **空港アクセス鉄道等の整備により熊本都市圏の人流の変化が見込まれる**
⇒渋滞解消には道路整備のみならず公共交通への転換に向けた環境整備が急務
- **特に新水前寺駅では乗換えが非常に多く、電停から人が溢れるなど大変危険**
⇒今後JR利用者の増加が見込まれており、さらなる状況の悪化が懸念される
- **バスの運転士不足が顕在化**
⇒今後10年で約2割減少する見込み（約200人の減少）



＜JR原水駅の混雑状況＞

基幹公共交通の機能強化及び乗換拠点の利便性向上により
自家用車から公共交通へリバランスを図る

3. 今年度以降の取組

＜渋滞対策＞ バスレーンの導入

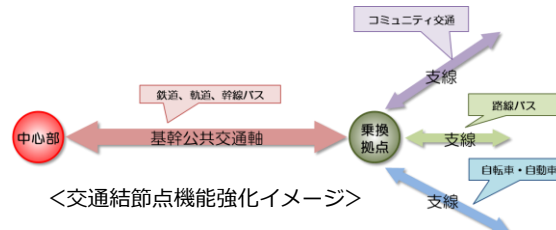
- バスレーン導入の実現性(現地状況、事業費、事業期間等)や導入効果等を踏まえ、具体的な導入内容(区間、手法等)を検討
- 事業効果の最大化を図るため、バス利用促進に寄与する施策（P&R、C&R等）や渋滞緩和に寄与する施策（スマート交差点、時差出勤等）をあわせて検討



＜バスレーン等施策イメージ＞

＜利便性向上＞ 主要結節点の機能強化

- （上熊本駅）
 - 合志市及び熊本電鉄と「上熊本駅における交通結節機能強化に向けた協議会」を設立し、今年度中に交通結節機能強化の方向性を取りまとめる
 - 検討状況について適宜報告する
- （新水前寺駅）
 - 混雑の解消及び利用者の安全確保を図ることを目的として、JR高架下付近にバス停（上り）設置を検討中。関係者との協議が整い次第、地元説明を行い、R7年度に詳細設計実施を目指す



＜交通結節点機能強化イメージ＞



雨天時状況

＜運転士不足対策＞ 自動運転の導入

- 運転士不足への対応や移動手段の確保、渋滞緩和など、地域公共交通の維持・確保に向け自動運転の導入を検討
- 今年度は熊本城を周回するルートで実証実験を実施し、周辺への影響や安全性の確認を行い機運醸成を図る（複数年で実験を計画）



＜導入予定車両＞